

図書館の開館日・開館時間について

多摩市の図書館は現在、図書館6館と行政資料室で運営されています。(来春、7館目の図書館「唐木田図書館」がオープンします。)

図書館を便利に使っていただけるよう、開館日や時間を工夫してきましたが、その結果、各館でそれぞれ異なってしまう、分かりにくいところのご指摘もいただいています。

「木曜日に全館休館なのは不便だ」との声にお応えし、現在、本館は「第1木曜日以外の木曜日」を開館しています。また、来春にオープンする唐木田図書館は、木曜日ではなく、毎週月曜日が休館日となる予定です。

祝休日は、駅前の関戸図書館と永山図書館が5時まで開館しています。この2館は、平日は夜7時半まで開いていますので、是非ご利用ください。

朝9時半から開館しているのは、本館と永山図書館です。他の館は10時に開館しています。

行政資料室は平日のみの開館で、8時半から午後5時まで開いています。行政資料の閲覧・調査や貸出が主な業務ですが、一般書の貸出・予約も行なっており、木曜日にも利用いただけます。

また、年末年始は全館29日から年明け3日まで休館し、4日から開館いたします。

年末年始の休館中は、ブックポストも利用いただけませんのでお気をつけください。

表紙イラスト募集中!

やまばと通信では、親しみある紙面を目指し、表紙を飾るイラストを随時募集しています。もちろんプロ・アマ、大人・子供を問いませんので、奮ってご応募ください。

【応募規定】

原稿サイズ: 8 cm x 13 cm 程度もしくは上記の比率で拡大したもの、最大でA4サイズまで。ケント紙等の白地で表面が平らな紙に、黒の単色(鉛筆不可)で描かれたオリジナル作品。写真やカラー作品も可能ですが、印刷が綺麗にない可能性があります。



【募集テーマ】

季節感のあるもの・多摩市の風物等

【応募方法】

応募作品と、お名前・ご連絡先を記入した用紙を最寄の図書館にお持ちください

【掲載について】

応募いただいた原稿の中から、季節や該当号のイメージで掲載させていただきます

【注意事項等】

著作権は多摩市立図書館に帰属します

大きめに描いていただくと、縮小した時に綺麗に出ます。また誌面の都合上、最小限の編集をさせていただきます場合があります。原稿は、掲載の有無に関わらずお返しいたしませんのでご了承ください。

【図書館員の日常】レファレンス篇①

図書館の日常風景から、ある職員のリファレンスコーナー(調べ物受付カウンター)でのお話を。

今より若く、どきどきしながらレファレンスコーナーに座っていた頃のことです。

【事例1】

利用者「織田信長の写真が見たいんですけど…」私「え?」

危うく「その時代に写真はありません」とマヌケな返事をするところでした。しっかりしろ私。もちろん「信長の肖像画」の写真でOKでした。

【事例2】

利用者「一本杉球場で市長が行なった食事の記事が見たい」

私「ハイ…?」

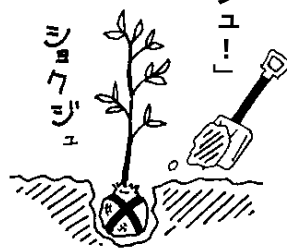
探しながら、色々お話を伺う。しかし記事は出てこないし、なんだか話がかみ合わない。球場で食事って、どんなイベント? 園遊会みたいな…?

私「確認ですが…市長が球場でお食事されたんですよね?」

利用者「植樹だよ、シヨクジュ!」

大爆笑されてしまいました。

すみません…耳悪い上に、早とちりでした(赤面)。



やまばと通信

多摩市立図書館 情報誌 187号

来年も図書館で夢を広げよう!

主な記事

p.1 「唐木田図書館来春オープン」

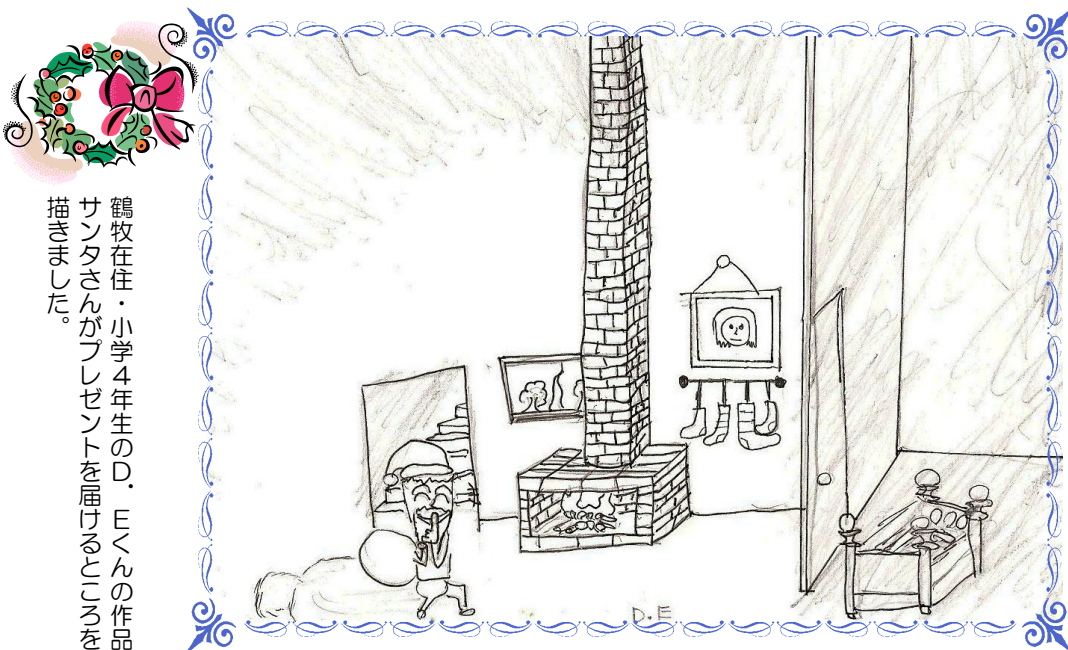
p.2 「絵本のよみかせ講座から」

p.3 「クリスマスの本」

p.4 「図書館の開館日・開館時間」

「表紙イラスト募集中!」

「図書館員の日常」



鶴牧在住・小学4年生のD・Eくんの作品。サンタさんがプレゼントを届けるところを描きました。

(仮称) 唐木田図書館 来春オープン

多摩市で7番目の図書館、(仮称)唐木田図書館が平成23年4月にオープンします。

小田急線唐木田駅から徒歩2分。コミュニティセンター「からきだ菖蒲館」の1階に入ります。開館時間や地図などの詳しい情報は、「やまばと通信」などで順次お知らせいたします。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

「(仮称)唐木田図書館の運営に関するアンケート」を平成21年の11月から12月にかけて実施し、1,000件以上の回答をいただきました。集計結果は各図書館で、また図書館ホームページでご覧いただけます。

多摩市立図書館

〒206-0033 多摩市落合2-29

(電話)042-373-7955

(FAX)042-375-9459

図書館ホームページアドレス <http://www.library.tama.tokyo.jp/>

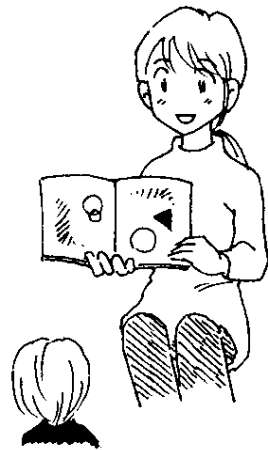
携帯電話アドレス <http://www.library.tama.tokyo.jp/i/>

2010年12月 発行



『絵本のよみきかせ《中級》』

「続けよう！ボランティア【実践編】」から



今年10月、図書館・本館で全3回のボランティア向け「よみきかせ講座」を行いました。講師は各地の講座・講演会で引つ張りだこの石川道子先生（「こさぎ文庫」主宰）。今回の講座はスキルアップのための【実践編】にも関わらず、40名の定員を超えるご応募をいただきました。また終了後のアンケートでは、「改めてよみきかせの意義を感じた」「勉強になった」「自信や元気をもらえた」との感想を数多くいただき、たいへん好評でした。

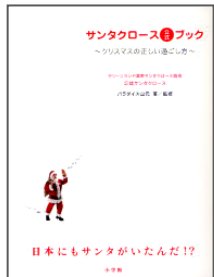
第1回目は先生の講義が中心で、よみきかせ・おはなし会の意義や方法についてお話しいただきました。第2回・3回目は、受講者の方々が皆さんの前に出て順番に絵本を読み、絵本の持ち方から、ページのめくり方、声の出し方など、先生に丁寧な講評をいただきました。

近年、学校などで子供たちに絵本を読まれるお母さんもお勢いらっしやるかと思えます。先生のお話の中から、よみきかせをはじめた方へのアドバイスと注意点を紹介します。

『サンタクロース公式ブック』

クリスマスの正しい過ごし方

パラダイス山元著 小学館 2007



クリスマスって、ケーキを食べたりプレゼントがもらえるラッキーな日？

「グリーンランド国際サンタクロース協会」から認定された日本でただ一人の公認サンタクロースが世界標準のクリスマス文化を紹介。

『クリスマス・プディングの冒険』

アガサ・クリスティー著 橋本福夫他訳

早川書房 1985



表題作以下6篇の短篇集です。
古き良きイギリスの田舎の古風なクリスマスを名探偵とともに味わえます。少し古い本ですが、ぜひお勧めします！

《よみきかせ・おはなし会のために》

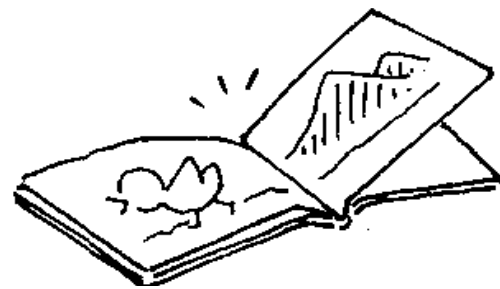
- 絵本を知る・好きになる
- 子供と一緒に本を楽しむ・子供と本を出会わせる（本には色々な世界がある）
- 「子供だからこの程度でいい」はダメ
- 1人でなく2・3人で行なう
- （1人は子供の様子をみる）
- 仲間と話し合う
- 他人の子供に対する責任がある事を自覚する
- 活動上知った個人情報公開しない



「どの本を読んだらいいの？」本選びに迷った時には「絵本のリスト（お勧めの絵本を紹介している本）」を参考にどうぞ。石川先生のお勧めのブックリストは、「複数の人が選んでいる本」「自分の子供以外の子に読んでいる人が作った本」「子供に質の高いものを届けたいと思っている人が作った本」。詳しくは職員にお訪ねください。

《絵本を読み聞かせる前に》

- 読む前に「おりぐせ」をつける ※
- 10回は声に出して読む（繰り返し読む事でテーマや面白さがわかる）
- 10回読んでも面白くない本は読まない
- 10回読んだら、次に絵を見る
- どう読んだらよいか分からない本はやめたほうがよい



※ おりぐせ（折癖）：新しい本はページがふわっと浮き上がってしまうもの。読みづらいだけでなく、子供達から絵が見えません。そこで、読む前にまず「真ん中のページ」を開き、喉元をしっかりと押さえて折り目をつけます。次に右に1ページ開いて折り目をつけ、左に開いて…と、全てのページを折り、浮かないようにクセをつけます。図書館の本を読み聞かせに使うときも、折癖をつけてからご利用ください。

よみきかせは子供達に素敵な絵本を届けるために行なうもの。全員に「絵が見える」「声が届く」ように、「この本を手渡したい」という気持ちで読んでみてください。

皆さん、よみきかせ・勉強を続けてくださいね。

クリスマスにぴったりの本

12月といえば、クリスマス！

寒い冬にほんわかしたクリスマスの本を開いて、暖まってみませんか？ここに紹介した以外にもたくさんのクリスマスの本があります。ぜひ手にして幸せな気分になってください！

↓ この3冊もおすすめです！ ↓

- ★『名作に描かれたクリスマス』 若林ひとみ著 岩波書店 2005
- ★『恋人たちのいる風景 O・ヘンリー ラブ・ストーリー』 洋泉社 2009
- ※ おなじみ『賢者の贈り物』を含む珠玉の短篇集
- ★『34丁目の奇跡』 ヴァレンティン・デイヴィス著 あすなろ書房 2002

『パパのさいこの贈りもの』

ジーン・リトル作 茅野美と里訳 偕成社 1988

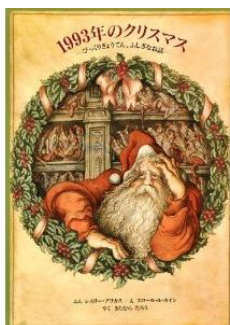


父親をがんで失うという、重いテーマを扱った本ですが、心がジーンと熱くなるお話です。「よんでみよう！6年生」にも掲載していますので、ぜひ（大人の方も！）読んでみてください。

『1993年のクリスマス』

びつくりぎょうてん、ふしぎなお話

レスリー・プリカスぶん エロール・ル・カインエ きたむらたろうやく ほるぷ出版 1998



サンタクロースの仕事は1年に1度、世界中が幸せになるように気を配ること。二千年間、子供達にプレゼントを配っているサンタさんが、人間社会の変化に苦労している姿が描かれています。

サンタさんが安心してプレゼントを配ることが出来る世界を、と願わずにはいられません。

『サンタが空から落ちてきた』

「コルネリア・フンケ著 浅見昇吾訳 WAVE出版 2007



もし長靴を脱がされたら、サンタはチョコレートに…。ある日突然空から落ちてきた、ユレブックという最後の本物サンタ。悪党のヴァルデマルが北極を支配するようになってから、クリスマスはひどいものになってしまった。少年ペンは、ユレブックを守る事ができるのか。子どもたちのクリスマス冒険ファンタジー。